

# 安全重点施策

鉄道安全会議において、各部署の安全の具体的目標である「安全重点施策」を定めています。

平成22年度安全重点施策		
安全推進部	安全管理体制の確立	①監査を通して事故対策の検証を行う ②ヒヤリハットの啓発活動を継続 ③安全大会を継続して開催、各部署の安全マネジメント教育の充実を図る提案を行う
鉄道企画部	安全管理体制の確立	①輸送の安全確保に必要な要因を検討分析し、安全に関する設備投資計画、予算計画を立案する。さらに、前年度の投資案件に対し、その効果を検証する ②「ゼロベース」思考での業務改善プロジェクトを展開する。実地調査やヒアリングなどにより、作業内容、必要なスキル、課題などの可視化、分析を行い、改善につなげる
(鉄道営業部) 駅担当	安全管理体制の確立	①安全教育の徹底により、線路内および接近作業時における脱線事故を防止する ②操車業務における基本取り扱いを徹底するとともに、異常事態を想定した知悉度調査ならびに教育訓練を行う ③ヒヤリハット報告を充実し、対策を実現化する
(鉄道営業部) 運転担当	安全管理体制の確立	①安全に関する教育訓練を実施する ②ヒヤリハット情報を周知するとともに、原因分析を行い、対策などへ活用する ③教育・指導の機会を中心に、乗務員を含め、すべての職種間でのコミュニケーションを継続的に図る
	運転設備および 取扱い基準の改善	①設備の改善を進めるとともに、運転取り扱いに関するマニュアルなどを精査のうえ簡素化も含めて対応し、保安度向上を図る
工務部	安全管理体制の確立	①安全に関する教育訓練の実施および報告を確実に行うとともに、その効果の確認を行う ②他社および他部署の事故について、自部門に照らし合わせて自己診断を行う(年間10件以上) ③ヒヤリハット報告を充実させるとともに現場係員へのフィードバックを行う
	安全関連投資の 実施または線路・施設 変更への対応	①耐震補強工事 ②地下駅防火防煙シャッター設置工事 ③道床改良工事 ④分岐器改良
電気部	安全管理体制の確立	①安全情報の伝達についてより確実な仕組みを構築し、教育訓練の機会などで係員の知悉度合いを確認する ②ヒヤリハット情報の係員へのフィードバックを、より充実させて実施する
	安全関連投資の実施	①踏切支障報知装置新設工事 ②支持物補強建替工事 ③変電所建替等工事 ④運動装置更新工事 ⑤ホーム異常通報装置新設工事 ⑥信号機LED化工事 ⑦新型ATSシステム構築工事(詳細設計)
車両部	安全管理体制の確立	①運転保安に関する「事故の芽情報」についてヒヤリハットを集約し、事故の未然防止を図る ②教育・訓練を通じて、車両に関する重大事故の教訓を継承する
	安全関連投資の 実施または線路・施設 変更への対応	①運転状況記録装置新設 ②列車防護無線の新設 ③8000系車両改修工事 ④新型ATS装置の検討
大津鉄道部	安全管理体制の確立	①運輸係員が主体的に安全意識を高揚できるための取り組みを行う(営業課) ②扉事故防止のための取り組みを行う(営業課) ③施設点検の基準などを見直すとともに、確実に点検を実施する(技術課) ④ヒヤリハット報告啓蒙期間を設けて報告件数を増やす
	安全関連投資の実施	①運転状況記録装置の設置 ②扉誤扱い防止装置の設置

平成22年度実績		平成23年度安全重点施策	
安全推進部	安全管理体制の確立	①事故対策の効果有効性について確認し、各部署と意見交換を実施 ②協力会社を本活動に組み入れる部署も増えるなど、活動の重要性が浸透した ③安全大会は平成23年3月30日に開催し、経営管理部門も含めた各層への教育を行った	安全管理体制の確立 ①監査において、事故対策および部門間連携の検証を実施し、課題の把握と改善指導を行う ②リスク情報の分析・活用により事故の未然防止を図る ・「ヒヤリ・事故の芽」活動の積極的な展開 ・他社事故情報による自己診断と水平展開 ③教育・訓練による安全管理体制の強化を図る 安全関連投資等 ・監査・現場調査・ヒアリングなどに基づき投資課題を抽出・整理し、投資計画を検証する
鉄道企画部	安全管理体制の確立	①設備投資計画は継続的な大規模物件、運転保安上必要な更新物件について、必要性和優先度の検討の中で、当社の経営環境・規模に合わせて取りまとめた。前年度の設備投資効果検証に関しては、LED化、車両電動機絶縁更新について投資効果の検証を行った ②車両部、電気部、工務部で安全を維持しながら効率性を高める改善策を適宜実施した。また、鉄道営業部の駅業務について調査、分析を行い、改善策を策定した	安全管理体制の確立 ①事故の防止対策等安全性の向上を図るため、案件について、調査、ヒアリングを実施し、輸送の安全確保に必要な要因を検討分析し、安全に関する設備投資計画、予算計画を立案する。さらに安全を維持した中で適切な長期設備投資計画を検証する ②「ゼロベース」思考での業務改善プロジェクトを鉄道営業部運転部門へ展開する。また、技術各部をはじめとして、既に行った施策のフォローアップを行う
(鉄道営業部) 駅担当	安全管理体制の確立	①駅係員への教育を定期的に実施。取引業者への安全講習会(年1回)を実施 ②操車業務を経験していない助役を中心に、引継期間中の教育を実施した。また、軌道回路不正落下時の取り扱いを周知するため、操車担当助役業務研修会を実施した ③ヒヤリハット体験をまとめたものを全駅に掲示し対策を公募。ヒヤリハット体験報告と対策をフィードバックする取り組みを3ヵ月に1度実施。また、売店など取引業者や施設担当者に対して、取り組みの趣旨を周知するとともに、提出しやすい環境づくりに努めた	安全管理体制の確立 ①安全教育の徹底により、線路内および接近作業時における脱線事故を防止する ②操車業務における基本取り扱いを徹底するとともに、異常事態を想定した教育訓練を行う。さらに、技術部門との勉強会を運転と合同で開催し知識の向上を図る ③事故やヒューマンエラーの再発防止を図るため、「ヒヤリ・事故の芽」報告を活用し、対策を実現化する
(鉄道営業部) 運転担当	安全管理体制の確立	①各職種の業務研修会において運輸安全マネジメントの教育を行うとともに異常事態を想定した訓練を実施した ②ヒヤリハット情報を全係員に周知するとともに、原因分析を行い、重要なものについては改善を実施した ③助役および乗務員の業務研修会において、ヒューマンエラーの防止をテーマにした意見交換を行った。また、同業他社との交流において安全への取り組みについて意見交換を実施した	安全管理体制の確立 ①助役・運転士・車掌など各職種の業務研修会において、安全に関する教育訓練を実施するとともに、異常事態を想定した訓練を行う。さらに、技術部門との勉強会を駅と合同で開催し、知識の向上を図る ②教育・指導の機会を中心に、乗務員を含め、すべての職種間でのコミュニケーションを継続的に図る ③事故やヒューマンエラーの再発防止を図るため、「ヒヤリ・事故の芽」報告の原因分析と傾向把握を行い、対策などへ活用する
	運転設備および 取扱い基準の改善	①国道163号架道橋防護柵を増設したことにより接触による列車支障が回避できた。車掌執務を見直し扉事故防止に一定の効果が見られ安全運転の向上が図られた	安全関連投資等 効果を見極めつつ設備の改善を進めるとともに、運転取り扱いに関するマニュアルなどを精査のうえ簡素化も含めて対応し、保安度向上を図る
工務部	安全管理体制の確立	①9月に全係員を対象に集合教育を実施し、アンケート形式により効果確認をした。わかりやすく理解できたという結果を得ている ②年間12件の診断を行った ③ヒヤリハット報告数は30件。報告されたヒヤリハットは安全衛生委員会、工務部HP、各担当連絡会などにおいて現場各部署に展開した	安全管理体制の確立 ①軌道内作業時の早期退避、工事現場の安全管理の徹底 ②「ヒヤリ・事故の芽」活動を積極的に展開し充実させる。ヒヤリハット、潜在的なリスク情報を抽出(目標年間100件)し、対策を実現化する ③社内外の事故情報をすみやかに展開する体制を構築するとともに事故に対する敏感な意識を持ち、自部門への診断を行う(目標年間50件)
	安全関連投資の 実施または 線路・施設 変更への対応	①耐震補強工事、耐震診断を2件実施 ②三栄駅上りホームの防火防煙シャッターを設置 ③道床改良工事を全長431m実施 ④2ヵ所の分岐器について弾性ポイント化、改良型分岐器への更新を行い、列車騒音・振動の低減および運転保安度の向上を図った	安全関連投資等 【列車運行の安全対策】 ・道床改良工事 ・分岐改良 【防災対策】 ・耐震補強工事 ・地下駅防火防煙シャッター設置工事
電気部	安全管理体制の確立	①規程類の変更時には、必要に応じて目的と要旨を配布説明、表示に変更理由をより詳細に記載した。他社事故例ではセルフチェックレポートを新たに作成し、事故の概要に加え当社における状況のチェックを確実に実施する体制にした。知悉度の確認では、方法を変更して教育訓練時に実施した ②ヒヤリハット報告数は127件(直営22件、協力会社105件)。各種会議体にてフィードバックを行った。他部署のヒヤリハット情報について、電気部に当てはめて周知を図った。実際に設備改善につなげた事例も2件あった	安全管理体制の確立 ①係員(協力業者含む)のエラーに起因する事故や障害の発生ゼロを達成するため、指導・教育訓練などの充実を図る ②安全に関する各種情報の伝達について、これまでに構築した仕組みを確実に実施するとともに、係員の知悉度合いを確認する取り組みも引き続き実施する
	安全関連投資の 実施	①7踏切道に踏切支障報知装置を新設 ②コンクリート柱7本の補強を実施 ③蒲生変電所の監視制御盤、整流器設備、変圧器などの更新を実施 ④寝屋川車庫の継電運動装置を電子運動装置に更新 ⑤2駅にホーム異常通報装置を新設 ⑥19基(進路予告機1基含む)の信号機をLED化 ⑦基本仕様を策定、地上装置の機器仕様検討中	安全関連投資等 【列車運行の安全対策】 ・新型ATSシステム構築工事(詳細設計) ・信号機LED化工事 ・電車線き電用架化工事 ・支持物補強建替工事 【踏切の安全対策】 ・踏切支障報知装置新設工事 【駅の安全対策】 ・ホーム異常通報装置新設工事 【防災対策】 ・変電所建替等工事 ・風速計更新工事
車両部	安全管理体制の確立	①ヒヤリハット報告数は30件(過去に発生した事例9件を含む)。提出された各事象について対策を実施するとともに、一覧表を作成して情報共有に努めた ②運輸安全委員会より発表されている鉄道事故調査報告書より、車両部係員に周知が必要な内容を選び、自社と比較した内容で勉強会を実施した。また、自社・他社の災害事例や、ヒヤリハット報告をテーマに運輸安全マネジメント勉強会を実施した	安全管理体制の確立 ①運転保安に係る「ヒヤリ・事故の芽」報告について集約し、その情報を周知・展開することで、事故の未然防止を図る ②技術継承の教育・訓練を通じて、車両に関する重大事故の教訓を伝承する ③安全教育・安全巡視を通じて、基本動作の励行を徹底する
	安全関連投資の 実施または 線路・施設 変更への対応	①90編成182両完成(進捗率90%) ②58編成118両完成(進捗率59%) ③4編成32両完成(進捗率40%) ④他部門やメーカーとの検討を重ね、車上装置の仕様概要が決定	安全関連投資等 【列車運行の安全対策】 ・新型ATS装置の設置 ・列車防護無線の新設 ・運転状況記録装置の新設 【車両の安全対策】 ・新造車両の投入(平成23、24年度) ・8000系車両の改修
大津鉄道部	安全管理体制の確立	①事故防止検討会を2回実施。運転士のべ24人が出席した ②事故防止検討会で運転士自身が扉事故防止を検討したほか、業務研修会および個人面接指導で扉扱いの重要性について説諭した ③土木関係規程類集の「線路巡視基準」の見直し完了。京津線橋梁構造物の維持管理を行うための健全度検査を実施した ④安全運転推進運動期間、年末年始安全輸送期間をヒヤリハット啓蒙期間と位置づけ、期間中279件(労働安全に関するものを含む)の提出を得た	安全管理体制の確立 ①「ヒヤリ・事故の芽」報告を有効活用する ②課題を定めて事故・故障対応訓練を実施する ③運転士安全指針を定めるなど、安全意識の向上に努める(営業課) ④法令の理解度を高め、社内規程類との整合性を点検する(技術課)
	安全関連投資の 実施	①600形、700形13編成に設置。平成25年3月に全車設置予定 ②戸閉表示灯確認補助灯(閉め忘れ防止)を800系2編成に設置。平成25年5月に全車設置予定。ホーム検知装置(誤開扉防止兼開け忘れ防止)を600形、700形5編成に設置。平成28年度に全車設置予定	安全関連投資等 【列車運行の安全対策】 ・運動装置更新工事 ・ホーム検知装置の設置 ・戸閉表示灯確認補助灯の設置 ・運転状況記録装置の設置 【防災対策】 ・踏切橋脚耐震補強工事の検討